

## NGO との鳥類の保全施策に関する共同検討（第 1 回）

日時：2023 年 9 月 28 日（木） 10 時～12 時 10 分

会場：ウェブ会議システムにおけるオンライン開催

- 出席者
- 公益財団法人日本自然保護協会（NACS-J）
  - （順不同） 公益財団法人自然保護基金ジャパン（WWF ジャパン）
  - 公益財団法人日本野鳥の会
  - 公益社団法人大阪自然環境保全協会（ネイチャーおおさか）
  - 日本野鳥の会大阪支部
  - IUCN（国際自然保護連合）日本委員会
  - 公益社団法人 2025 年日本国際博覧会協会 持続可能性部、整備調整部

■議事：

- 1 開会挨拶（博覧会協会 持続可能性部長 永見 靖）
- 2 出席者の確認
- 3 会議の趣旨、公開について
- 4 検討事項

### ①事後調査計画書に基づく鳥類の事後調査結果（速報）について

### ②鳥類（シギ・チドリ類、コアジサシ等）の保全・配慮について

以上 2 点について事務局が説明し、出席者から以下の発言があった。

- ・ 個体数のカウントは非常に重要。
- ・ セイタカシギ、シロチドリなどを中心に重要種がどこでどのくらい繁殖しているのか公開すべき。
- ・ シギ・チドリ類に関しては、水辺があればそこに来るというわけではなくて、ゆるやかな傾斜であるとか、底質の状況によってどれだけ来るか、どのように利用するのかが決まってくる。水位の取り方や傾斜の角度等野鳥がどういう生息地を好むのかということを照らし合わせて検討する必要がある。
- ・ 博覧会協会で検討している中身も共有し、NGO 側の今までの経験も踏まえて、共同で進め方を検討してほしい。
- ・ 夢洲 2 区（南西部）B 区域（つながりの海）の水位が高くなることに加えて、円形の高い建物（リング）から人が見下ろす形になると思う。シギ・チドリの習性として、一般的には警戒心が強くて物陰が近くにある所には寄り付きたがらないという傾向がある。B 区域の水辺に乘る形でこの建物が建設され、そこから見下ろす形に

なると、北側半分くらいは鳥にとって警戒区域ということになる。会期中は B 区域にはほとんど鳥が寄り付く場所がないのではないかと心配をしている。

- ・万博会場で虫を忌避するような薬を撒くと、鳥の憩いの場所にはなり得ないといった事も観点としてほしい。
- ・新島でコアジサシが繁殖しているが、ベニアジサシが優勢になってきている。会場予定地外で配慮するという事であれば、デコイの貸出について協力したいと思う。
- ・終了時点でどう返すかについても、大阪市と調整、検討をしていく必要がある。
- ・開催期間中だけで生物の事を論じるのではなくて、今後の日本、世界の事や、大阪湾の環境、生物多様性をどう考えていくのか、大阪港湾局や環境 NGO に加えて、関連する企業とかアカデミアも入れて、議論していくべき。

これに対して事務局からは以下のコメントをした。

- ・鳥類の重要種については、個体数を入れた形で情報発信する。
- ・調査結果（重要種）の確認できた地点については、保護の観点から非公開としていることから、どこまで提供できるか検討させてもらいたい。
- ・シギ・チドリ類などの浅場（傾斜、水深等）についてのご意見は、具体的な調整ができていないので、ご意見等を踏まえ検討していく。
- ・シギ・チドリ類の配慮場所は、現時点では夢洲 2 区（南西部）C 区域（沈殿池）となっている。その後の配慮場所については調整中であるため、NGO 側の方々からのご意見も参照して、検討していく。
- ・静けさの森など、植栽の維持管理に関するご意見は担当に伝える。
- ・コアジサシ等裸地を利用する鳥類への配慮事項として、来年度に向けた相談を改めて行いたい。
- ・港湾局には今後の大阪湾等の生物多様性について共同で検討したいというご意見があった事はお伝えする。
- ・シギ・チドリに関する傾斜の取り方、水位の調整方法など、何か具体性をもってこういう形にしてほしい、こういう形にすべきだというご提案があればいただきたい。

以上